

「次世代経口胆道鏡 SpyGlass™ DS を用いた内視鏡的胆道結石治療の有用性に関する後方視的集積研究」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2021年9月7日～2026年12月31日

〔研究課題〕

次世代経口胆道鏡 SpyGlass™ DS を用いた内視鏡的胆道結石治療の有用性に関する後方視的集積研究

〔研究目的〕

本研究の目的は、胆道結石症に対して次世代経口胆道鏡 SpyGlass™ DS(以下 DS)を用いて行われた内視鏡的胆道結石治療の有効性と安全性を後方視的に評価することです。

〔研究意義〕

総胆管結石に関して、結石嵌頓、巨大結石、肝内結石、合流部結石など、内視鏡的結石除去で十分な治療効果が見込めない、いわゆる治療困難結石が5%程度存在するとされています。これらの症例に対して、近年は親子式経口胆道鏡(peroral cholangioscopy: POCS)の開発が進み、治療困難結石に対する治療選択肢として確立されてきています。

DS は、独立送水チャンネル、吸引機能、広視野角デジタル画像など、治療用途に適した新しい機能を備えた次世代の POCS で、上述の治療困難結石に対しても有用性が報告されています。

そこで本研究では、胆道結石症に対して DS を用いて行われた内視鏡的胆道結石治療の有効性と安全性を後向きに調査し、その結果が今後の臨床に役立つものであると考えています。

〔対象・研究方法〕

研究は2016年3月～2023年4月の期間に、当院で DS を用いて内視鏡的胆道結石治療が行われた症例を対象にします。

調査する内容は主に以下のとおりです。

患者基本情報(年齢、性別、既往歴、結石数、結石サイズ、結石の部位)、手技(手技成功の有無、ES 施行の有無、手技時間、EL 施行回数、EHL 施行回数、入院回数、総入院日数、手技関連偶発症の有無と内容)、長期偶発症(内容、種類、重症度、発生日、最終診察日、死亡日など)など。

これらの個人情報が漏出することのないように患者個人を特定できないようにコード化した後に登録します。

〔研究機関名〕

帝京大学溝口病院消化器内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、対象となる方の個人を同定できる情報は一切使用致しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:土井 晋平 (教授)

研究分担者:渡邊 彩子 (助手) 勝倉 暢洋(助教)

所属:帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科

住所:〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1

TEL:044-844-3333 (代表)